

通算35回目の本会議個人質問へ

6月定例会

名古屋市会5月臨時会において議長の指名により令和4年度各議員の所属委員会が決定され松井よしのり議員は常任委員会では都市消防委員会の副委員長、特別委員会では都市活力向上特別委員会の委員となりました。

また、名古屋市会6月定例会（6月23日（木））において松井よしのり議員は今回の議会においても本会議質問に立ち、当選以来通算35回目となる本会議個人質問を行いました。

今回は、

- ① 猛暑期における救急需要への対応
- ② 新第1展示館開館を見据えた国際展示場の活用
- ③ 中学校部活動の在り方について 当局に問い質しました。



本会議個人質問の様子



1 救急需要への対応

2 国際展示場活用の

3 中学校部活動の在り方

松井よしのり

特集号 42

1 猛暑期における救急需要への対応について

Q 質問 松井よしのり議員

AI技術を活用した熱中症搬送者数の予測に基づき、事前に救急体制を強化していく考えは。

救急需要の増加を予測して「先手を打って」救急体制を強化しておくなど、もっときめ細やかな対応を行うことはできないのでしょうか。

A 答弁 消防長

今年度より熱中症搬送者数の予測データを活用した救急体制の強化を実施する！

松井議員ご指摘のとおり、AI技術の活用により、市内における熱中症搬送者数の増加を予測することができれば、事前に救急体制を強化することが可能となり、本市の救急サービスの質をより一層高めることができると考えております。

酷暑期における救急サービスのさらなる向上に向けて、今年度から、熱中症搬送者数の予測データを活用して、救急出動が著しく増加する前から救急隊を増やしておくといった「先手を打った」救急体制の強化を実施してまいります。



熱中症での救急搬送 予測データで効率化 市消防局

市消防局は本年度から熱中症の救急搬送者数を計算式で予測したデータの活用を始める。救急車の効率的な運用につなげる。松井良憲議員（自民）の質問に、小出豊明消防長は「先手を打った救急体制の強化を実施したい」と答弁した。

市消防局によると、平均気温や暑さ指数の予想値を入力すると区ごとの一日の搬送者数が予測できる計算式を利用。搬送者数が多い

なる可能性が高い日には、あらかじめ通常よりも手厚い体制を取り、出動に備える。

市消防局は二〇二〇年度に、名古屋工業大と連携し、過去六年分の搬送者の年齢や重症度、倒れた時間や場所などを解析。活用が始まる計算式は、この解析を基に作成された。

② 新第1展示館開館を見据えた国際展示場の活用について

Q 質問 松井よしのり議員

今後どのような方針で新第1展示館を活用していくのか!

この秋10月1日にオープンする新第1展示館開館後の予約状況と、催事開催見込み、つまり具体的なイベントの内容や名称をお答えください。さらに今後どのような方針で展示場を活用していくのかをお尋ね致します。

A 答弁 観光文化交流局長

全国でも秀でたMICE先進都市、展示会先進都市を目指す!

具体的には、こけら落としとして「小田和正さんのコンサート」や、新第1展示館の特徴を活かした「大規模会議と展示会を併設した全国会議」、「オートモーティブワールドといった大規模展示会」などの開催が予定されております。今後も、展示会をはじめとした多様なMICEを一つでも多く開催することができるよう、引き続き積極的に誘致提案活動を行うなど、全国でも秀でたMICE先進都市、展示会先進都市を目指してまいりたいと考えております。

MICEとは、企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (インセンティブ旅行) (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字を使った造語



新第1展示館



10/1オープニングセレモニー

都市消防委員会において松井議員が当局に要望!

ガイドウェイバス自動運転技術導入の検討

2026年のガイドウェイバス自動運転技術導入に向けて、しっかりと取り組んでほしいと強く要望!

地下鉄がない守山区の足であるガイドウェイバスの運行規模で自動運転技術が実装できれば日本初になる。増便・車両更新など課題があるが2026年に向けて、しっかりと取り組んで欲しいと強く要望。



ゆとりーとラインは名古屋市北東部を走る

消防団詰所について

南海トラフ地震に備え詰所の整備事業のさらなるスピードアップを要望!

消防団詰所の老朽化が進んでいる所がいくつかある。地域の防災の拠点でもあり、消防団の皆さんが安心して活動できる拠点にするため、消防団や地域の皆さんの声を聞き、南海トラフ地震に備え令和8年度までに約40ヶ所の詰所を整備する事業について、さらなるスピードアップができるよう、しっかりと進めてほしいと強く要望。



松井よしのり議員、当局に要望の様子



整備事業で進めた消防団詰所

令和5年度守山区の予算編成の要望書を提出!!

守山区選出の市議と県議でつくる「守山区公職者会」が令和4年9月2日、令和5年度の予算編成に向けた要望書を河村たかし市長に提出しました。

- ① 志段味地区の整備について
- ② 守山区の公共交通機関の整備について
- ③ JR新守山駅及び駅周辺の開発整備について
- ④ 山の手通線について
- ⑤ 浸水・震災対策について
- ⑥ 通学路の安全対策について
- ⑦ 歴史の里しだみ古墳群の広報と地域のにぎわい創出について
- ⑧ 守山区役所の改築について



守山区公職者会要望の様子

③ 中学校部活動の在り方について

Q 質問 松井よしのり議員

今後の中学校部活動の在り方を問う!

運動部活動の地域移行に関する提言がスポーツ庁の有識者会議からスポーツ庁長官に対して、提出され、今後は学校の運動部活動では支え切れなくなっている中学生のスポーツ環境について、学校単位から地域単位での活動に変えていく必要があるとされました。

現在の中学校部活動の課題を踏まえ、今後の中学校部活動の在り方について、どのように考えていくのか、教育委員会の姿勢をお答えください。

A 答弁 教育委員会事務局教育次長

生徒や教員、地域の方たちの意見も尊重しながら対応について考えていく。

今回の提言については、活動を行う地域の受け皿や指導者の確保等が課題とされておりますが、一方で、引き続き部活動指導を希望する教員もいると認識しております。

教育委員会といたしましては、こうした課題を解決できるよう、国の動向を注視しつつ、生徒や教員、地域の方たちなどの意見も尊重しながら、対応について考えてまいります。

